

# 新学習指導要領における総合的な学習の時間の重要性

常田 拓孝・佐々木 保

**抄録：**本調査の目的は、新学習指導要領におけるキーワード「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、総合的な学習の時間の実践が重要であるとの視点から中学校の実践を検討することである。調査した中学校では、総合的な学習の時間が「主体的・対話的で深い学び」の実現をリードする位置づけとなっていた。また別の中学校では、生徒のコミュニケーション能力を向上させるために総合的な学習の時間での学習が教科での学習に好ましい影響を与えていることがわかった。

**キーワード：**学習指導要領 総合的な学習の時間 主体的・対話的で深い学び

## 1. はじめに

総合的な学習の時間は、学習指導要領の改訂に伴い2000年（平成12年）から段階的に進められた。その後各学校では様々な実践や研究が行われてきた。自ら課題を見つけ、自ら学び考え、よりよく問題を解決する資質・能力の伸長を見ることができると多くの取組が多く行われてきた。

学習指導要領への導入以来20年の時が流れ、教育を取り巻く社会は大きく変化してきた。さらに、近い将来AI等の急速な進展によって現在の小中学生が活躍する2030年には現在では予想のつかない急速な発展、変化が起こるとされている。その変化の激しい社会では、知識の習得はもちろんのこと様々な課題を捉え、その解決のために様々な人々と協働して最もふさわしい解決方法を見いだすことができる人材の育成が望まれている。

2017年（平成29年）に改訂された学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」がキーワードとなり、「何を学ぶか」に加えて「どのように学ぶか」という学びの質や深まりの程度が重要とされている。この学習観の転換は、総合的な学習の時間のねらいや目標そのものであると言える。

本稿では、「主体的・対話的で深い学び」の展開における総合的な学習の時間の重要性を述べ、中学校での総合的な学習の時間の実践について調査した。

## 2. 大学生の総合的な学習の時間についての印象

筆者が担当している教職課程の授業を履修している学生を対象にして、中学生の時の総合的な学習の時間の印象について交流した。教職課程の授業のうち、特別活動・総合的な学習の時間の指導法（3年生対象 受講生27名）において行った。学生3～4名のグループで「中学校の時の総合的な学習の時間でどのような活動をしたか」、同じく「学習を通してどのような力が身についたと思うか」について交流し合い、全体にも発表する活動を行った。

活動内容についての発表では、「職場訪問、福祉体験、環境学習、農業学習、町づくりプラン学習、上級学校体験」などがあつた。よく覚えていないが、「外部の人が来て講演をした、地域に住む留学生と交流した、行事や修学旅行の準備をした」などの発表があつた。

どのような力が身についたかについての発表では、「訪問先へ連絡をとって打ち合わせをすること、

パソコンを使って事前に調べる方法、自分のアイデアをわかってもらうように伝える方法、外部の人の話の聞き方、訪問したことの発表の仕方、プレゼンテーションの仕方」などがあつた。また「人の話や説明を聞いているだけだった、授業の手順が決まっていたそれをするだけだった、どのような力が身についたかわからない」との発表も見られた。

また、総合的な学習の時間の感想では、「小学校でリサイクルなどの環境学習をしたが、中学校でも環境学習だった。同じようなことをしたような気がする」、「町の企業やスーパーマーケットに職場体験学習をしたが、どうしてそのようなことをするかについて前もって勉強することがなかった」、「そもそも何が総合的な学習の時間だったのか覚えていない」などがあつた。

同じように大学生に対して調査を行った栗原（2017）は、総合的な学習の時間は中学生にとっては楽しみにしていた時間ではあつたが、「その学習方法についてはよくかわらなかつた」と大学生が答えている、と述べている。活動内容は学校によって工夫され、生徒、地域の実態に応じた様々な活動が行われている。しかし実際の学習では、その活動によって生徒一人一人がどのような課題をもち、その課題をどのように解決するかについての事前の指導や学習場面が不足しているように思われる。「体験」することが主眼になっており、生徒が何を学び、どのように考え学ぶのかについてさらに工夫を要すると考える。

### 3. 新学習指導要領での総合的な学習の時間の役割

総合的な学習の時間が学習指導要領に示された当初は、学校現場は戸惑いと不安で溢れていた。目標や指導計画作成にあたっての配慮事項などは示されているものの具体的な学習目標や指導内容が教科などの指導要領解説とは違い、多くの事柄が各学校で作成することと述べられていたからである。

1998年（平成10年）中学校学習指導要領第1章総則に「総合的な学習の時間の取扱い」について5点にわたって述べられている。概要は「各学校は、地域や学校、生徒の実態等に応じて、横断的・総合的な学習や生徒の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行う」、「次のようなねらいをもって指導する。(1)自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。(2)学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。」以下、学習活動の内容の紹介、活動の名称、配慮事項とある。

教科等において指導計画作成し、学習活動の展開について検討、工夫することとは異なり、総合的な学習の時間が始まった頃は、各学校で「何をするか」、「学校外に出た場合にどうするか」、「活動を受け入れてくれる企業や施設はあるか」などがまずしなければならないことであつた。当初は児

学習過程・時数	学習活動	指導上の留意点	教科等との関連
(つかむ) オリエンテーション (1)	学習内容の理解 【職業体験学習】	・学習の明確化	
課題選択 学習計画 (2)	テーマ選択・決定 学習計画作成	・テーマを生徒一人一人に応じて設定できるように助言	国語 社会 技術
(調べる 学ぶ) 事前学習 (2)	【事前学習】 ・地域の企業、産業 ・働くことの意義	・事前学習の内容、仕方について助言	
体験学習1 (2)	【施設事前訪問】 ・事業所等への挨拶 ・体験内容の確認 ・準備内容の確認	・マナー指導 ・事業所等の訪問に際しての諸注意	道徳 特別活動
体験学習2 (2)	【職業体験の実践】 ・事業所等での体験 ・自己評価 感想	・事業所等との連携 ・事業所訪問	社会
(深める) 事後学習 (3)	【体験のまとめと考察】 ・レポート作成 ・ポスター作成 ・発表計画作成	・まとめの方法について助言 ・発表の仕方について助言	国語 数学 社会
学習成果発表 (2)	【体験発表会】 ・自己評価 ・相互評価	・評価方法について助言	
学習のまとめ (1)	【学習のまとめ】 ・学習して学んだこと ・今後の生活に生かすこと ・礼状作成	学習の振り返りについて生徒一人一人にコメント	国語

図1 学習計画の例

児童生徒がどのような活動を通して、学習し「生きる力」を身につけるかを時間をかけて検討することが十分ではなかった。いわば活動ありきで進めるしかなかった学校、地域が多々あった。図1は2001年（平成13年）の筆者の勤務校での「職業体験」を活用した総合的な学習の時間の指導計画の一部である。これを振り返ると、生徒にどのように実際に体験を積ませる学習させるか、について計画化することに偏っていた傾向があったと言える。

その後学習指導要領の2008年（平成20年）の改訂では、総合的な学習の時間が章立てとなり、詳細な記述となった。総合的な学習の時間の目標は次のように述べられている。「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的・創造的・共同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。」とある。

2回にわたる改訂を経て学校では総合的な学習の時間の意義が理解され、各学校で独自の取組が展開されてきた。一方で、総合的な学習の時間によって生徒に身に付けさせたい資質・能力が明確でなかったり、生徒が自らの体験を整理したり発表することがあっても自らが定めた課題をどう解決したか、さらに新たな課題や目標を見いだすまでに発展させることができていることも指摘された。

そして、今回の学習指導要領の改訂による総合的な学習の時間の目標は、「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。(2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・整理することができるようにする。(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。」(中学校学習指導要領 平成29年告示)である。図2では、2回の学習指導要領の改訂に伴う総合的な学習の時間と教科等との位置関係をイメージした。

根岸（2020）は、総合的な学習の時間がその趣旨を踏まえて実践することによって期待される成果を述べている。それらに加えてさらに、総合的な学習の時間が上記の目標の達成に向けて各学校が実践すると以下のような成果を上げることができる。すなわち、①生徒が日常生活や社会生活を通して関心をもったことについて課題として捉え、その解決方法について考えることができるようになる。②生徒が所属する集団の中で、成員同士が課題を共有し、その解決のための方策を交流してその集団

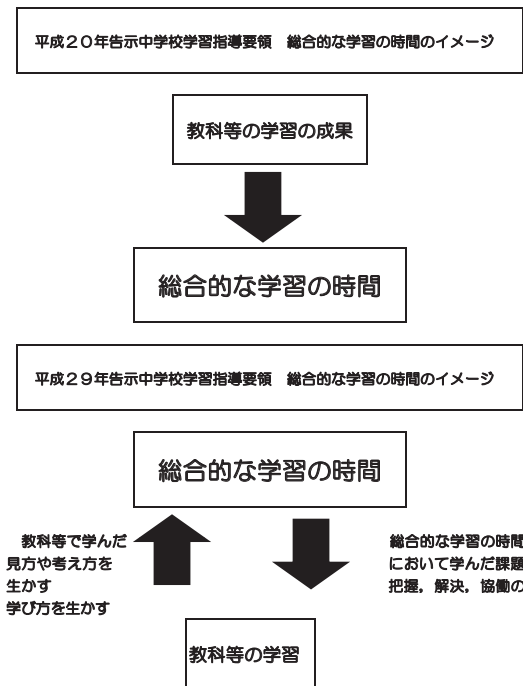


図2 総合的な学習の時間の位置づけ

の向上に寄与しようとする事ができるようになる。③生徒がその解決方を発展させ、さらによりよい課題解決の方法を仲間と取り組むことができるようになる。

このような総合的な学習の時間の目標、実践の方法は、今次改訂された学習指導要領におけるキーワードである「主体的・対話的で深い学び」の達成に大きな役割を果たすことが期待される。2016年(平成28年)12月中央教育審議会答申では、「探究的な学習の過程を一層重視し、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活において活用できるとともに、各教科等を超えた学習の基盤となる資質・能力を育成する。」と総合的な学習の時間の設置の経緯を述べている。これまでの総合的な学習の時間では、各教科等で学んだ知識・技能等を横断的・総合的に活用することをねらいとしていた。これに対して新学習指導要領では、総合的な学習の時間の学びが各教科等の学習の方法や学び方の基幹をなすとし、総合的な学習の時間がいわゆる探究的な学習の中心であると述べている。一ノ瀬(2019)が指摘しているように総合的な学習の時間は、全ての学習の基礎となる資質・能力の向上に貢献することができると言える。したがって、総合的な学習の時間は新学習指導要領の主旨、目標の実現のために中心的な役割を果たすように位置づけられている。

## 4. 中学校における実践

### 4.1 C市立C中学校の全体計画

図3は、C中学校の総合的な学習の時間の全体計画の一部である。学校教育目標の実現のために領域や機能ごとに目標を定め、その実現に向けた計画を立案している。

本編では紙面の関係で省略しているが、さらに教科、特別活動等における総合的な学習の時間での学びとそれぞれの指導目標の関連を述べている。

C中学校では、「つながり」をキーワードとして教育実践を行っている。様々な人との関わりを経験することにより、自己実現を図ることをめざしている。

この「つながり」を達成するための中核的な領域に総合的な学習の時間を位置づけている。

「主体的・対話的で深い学び」の展開において総合的な学習の時間の実践がその意義や目的をリードするという視点で全体計画を設定している。C中学校では、新学習指導要領の趣旨を踏まえて、前もって指導計画を立案し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた実践計画であるといえる。

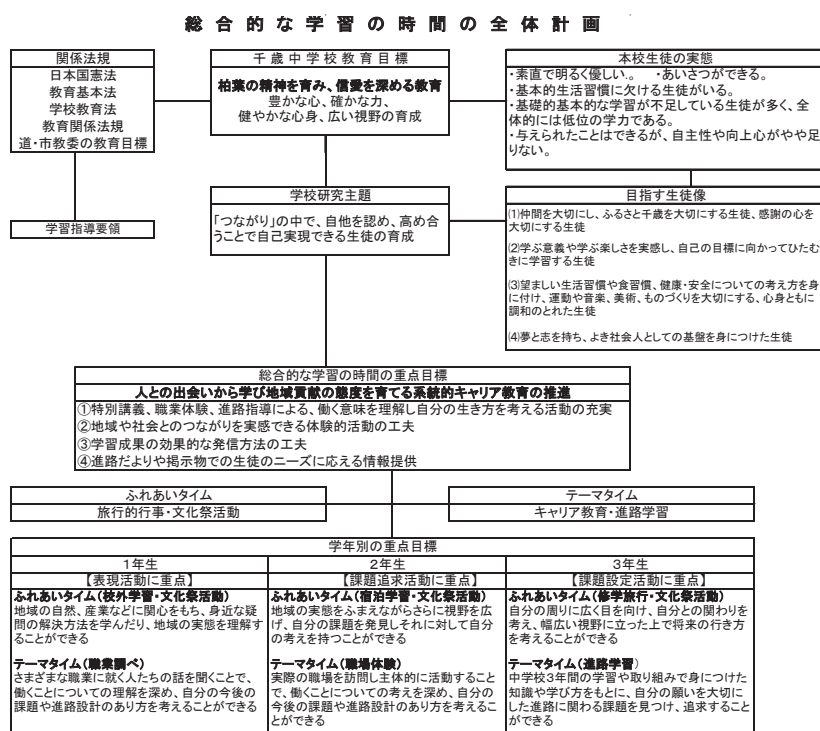


図3 総合的な学習の時間の全体計画



## 4.2 E市立H中学校の実践

### 4.2.1 単元名

「人間関係構築力を高めよう」(16時間)

### 4.2.2 単元設定の理由

コミュニケーションの基本的なスキルを身につけ、より良い人間関係を構築する力を身につけることは、他者と協働して課題を解決していくことが求められるこれからの社会においては一層重要である。

なお、今日の学校における生徒指導上の最大の課題であるいじめや不登校の問題を見てみると、人間関係をうまく構築できないことが要因となっている事例が多く見られることから、人間関係構築能力を高めることは、それらの問題の未然防止や深刻化を防ぐ上からも極めて重要である。

様々な体験的な学習や探究的な学習を通し、生徒一人一人により良い人間関係を構築できる力を身につけさせるため本単元を設定した。

### 4.2.3 学習活動の実際

この学習は、元鳥取大学医学部准教授 高塚人志氏のアドバイスを受けて実施されているものである。

1学年のコミュニケーションの基本的なスキルを学ぶ学習では、相手の感情に関心を向けてきくことの大切さ、あいさつの大切さ、力を合わせるとはどう行動することか、互いに認め合うことの大切さに気づくための体験学習が用意され、生徒たちは体験を通して実感をもって捉えることができる学習になっている。

2学年のコミュニケーションの基本的なスキルを学ぶ学習では、相手の感情に関心を向けることの大切さ、共通の目標に向かっての行動のしかた、互いを受け入れる思いやりの心の大切さ、人を大切にする心に気づくための体験学習が用意され、生徒たちは体験を通して実感を持って捉えることができる学習になっている。

3学年の「赤ちゃん登校日」の学習は、赤ちゃんと赤ちゃんのお父さん・お母さんに来校願ひ、生徒たちが継続して関わり体験を持つことで、赤ちゃんの成長やいのちの尊さを心と肌で実感しながら、

<1学年>「ヒューマン・コミュニケーション講座」

月	題材	学習活動のねらい	学習活動
6 (1)	「関心を向けて『きく』」こと	・相手の気持ち・感情に関心を向けて「きく」ことの大切さに気づき、学ぶ。	・「きくきくタイム」体験学習
9 (1)	「あいさつ再考」	・「あいさつ」について再考し、大切さを再認識し、学ぶ。	・「あいさつ再考」体験学習
11 (1)	「力を合わせる①」	・「力を合わせる」とはどう行動することなのかに気づき、学ぶ。	・「間違い探し」体験学習
2 (1)	「わたしに大切なもの」	・価値観の違いに気づき、認め合い、歩み寄ることの大切さに気づき、学ぶ。	・「わたしの大切なもの」体験学習

<2学年>「ヒューマン・コミュニケーション講座」

月	題材	学習活動のねらい	学習活動
6 (1)	「気持ち・感情に関心を向ける」	・相手の感情に関心を向けることの大切さに気づき、学ぶ。	・「電話によるコミュニケーション」体験学習
9 (1)	「力を合わせる②」	・共通の目標に向け、どのように行動し声をかけていくのかに気づき、学ぶ。	・「文字を探す」体験学習
11 (2)	「共に気づき、学ぶ」(小6・中2合同学習)・	・身近に人に関心をもち、互いを受け入れる思いやりの心の大切さに気づき、学ぶ。	・「じゃんけん列車」 ・中学校生活きくきくタイム
2 (1)	「大切にされた体験」	・次年度の赤ちゃん登校日に向け、人を大切にすることに気づき、学ぶ。	・「大切にされた体験」体験学習

<3学年>「赤ちゃん登校日」

月	題材	学習活動のねらい	学習活動
7 (1)	「(事前学習)『そばにいる人とすてきな時間を過ごすために』」	・基本的なマナーや、赤ちゃんや赤ちゃんの親などゼロの状態から人間関係を構築していくときに大切なコミュニケーションについて考える。	・基本的なマナーやコミュニケーション、小さな命に向き合う心構えについての学習。 ・赤ちゃん人形を使っての体験。
7 (2)	「生徒と赤ちゃん、赤ちゃんのお父さん・お母さんとの関わり体験①」	・赤ちゃんの成長やいのちの尊さを心と肌で実感しながらコミュニケーションの取り方を学び、パートナーの愛情に気づく一助とする。	・赤ちゃん、お父さん・お母さんと対面し、挨拶を交わす。 ・お父さん・お母さんから話を聴く。(新しい命が宿ったときや誕生したときの気持ちなど) ・関わり体験をする。(あやす、だっこするなど)
9 (2)	「生徒と赤ちゃん、赤ちゃんのお父さん・お母さんとの関わり体験②」	・赤ちゃんの成長やいのちの尊さを心と肌で実感しながらコミュニケーションの取り方を学び、自分の親の愛情に気づく一助とする。	・赤ちゃん、お父さん・お母さんと挨拶を交わす。 ・お父さん・お母さんから話を聴く。(赤ちゃんを大切に思う気持ち、1か月の変化など) ・関わり体験をする。(絵本の読み聞かせなど)
10 (2)	「生徒と赤ちゃん、赤ちゃんのお父さん・お母さんとの関わり体験③」	・赤ちゃんの成長やいのちの尊さを心と肌で実感しながら、気づき学んだコミュニケーションの取り方と他者への愛情を表現する。	・お父さん・お母さんから話を聴く。(赤ちゃんを大切に思う気持ち、ふだんの様子など) ・生徒一人一人が課題を明確にして関わり体験をする。 ・3回の関わり体験を振り返る。

図4 総合的な学習の時間の単元指導計画

人間関係を構築するときに大切なコミュニケーション（お互いの考えや気持ちを理解し合うこと）について学ぶ授業である。

この学習は、赤ちゃん募集などで市の教育委員会の支援を得ていることで、2～3名の生徒と一組の赤ちゃん、お父さん・お母さんがペアを組むことができている。生徒たちは、人と接するときの大切なマナーや赤ちゃんや赤ちゃんのお父さん・お母さんなど人間関係がゼロの人と関係を構築していくときに大切なコミュニケーションについて、体験を通して学習することができている。お父さん・お母さんから我が子に対する思いを聴いたり、実際に赤ちゃんをあやしたり、だっこしたり、絵本の読み聞かせをしたりする中で、相手に安心感や信頼感を与えるコミュニケーションの取り方について学習している。

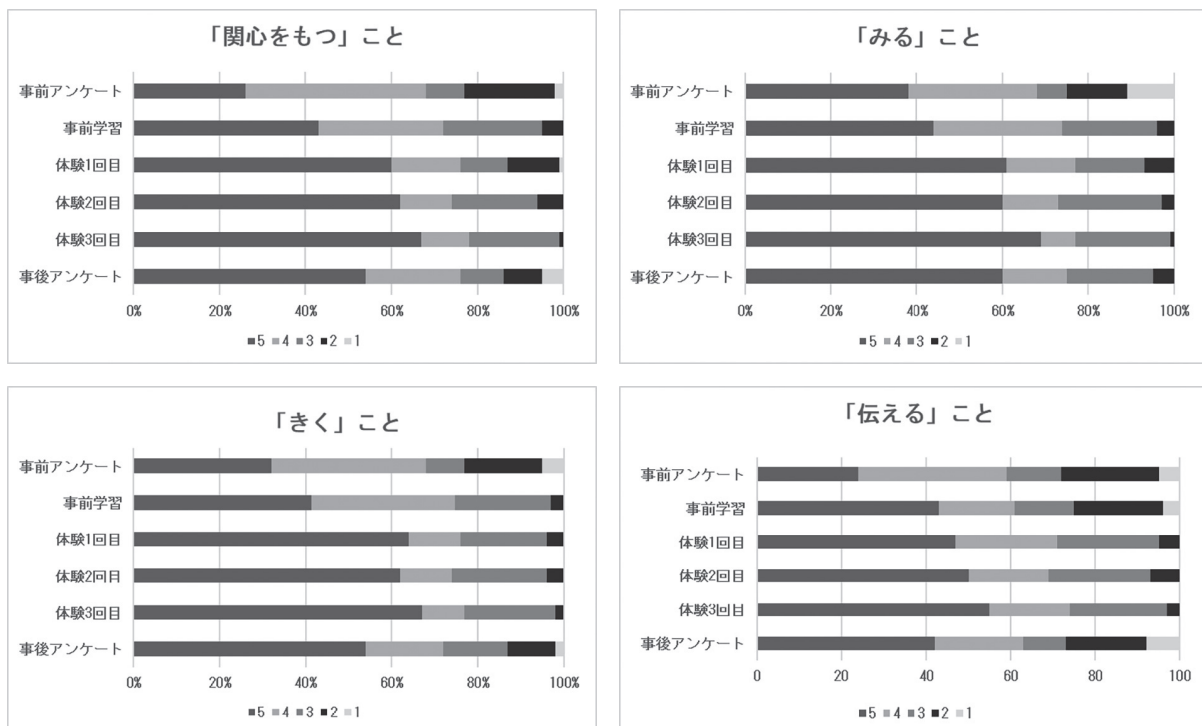


図5 生徒へのアンケート調査結果

#### 4.2.4 成果と課題

コミュニケーションのスキルの獲得について、「他者とのかかわり方のふりかえり」として、①「関心をもつ」こと（そばにいる人に注目していること）、②「みる」こと（そばにいる人のことをわかって、よくみること）、③「きく」こと（そばにいる人の気持ちをわかってきく）、④「伝える」こと（そばにいる人にわかるように、自分の考えや気持ちを話す）の4点の観点を設けている。これらを学習の区切りごとに生徒にアンケート調査を行っている。図5がその結果である。評価段階は「5 よくできている 4 まあまあできている 3 どちらともいえない 2 あまりできていない 1 できていない」である。概ね、学習が進むにつれてそれぞれの項目について「できるよう」になっていると言える。事後アンケートの結果が体験時よりも3～1の数値が多くなるのは実際の学習場がないからであろうと思われる。

H中学校での聞き取りから1学年、2学年で取り組まれているコミュニケーションの基本的なスキルを学ぶ学習では、体験活動を授業に効果的に組み込むことにより、生徒たちは興味を持って授業に

参加し、「関心を向けること」、「きくこと」、「協力すること」、「価値観の違いを認め合うこと」などの大切さを、実感をもって理解し、身につけることができている。

さらに、3学年の「赤ちゃん登校日」の学習では、初めて会う赤ちゃんやお父さん、お母さんとの関係づくりにおいて、挨拶の大切さや相手への関心の示し方、聴き方、気持ちの伝え方、安心感の与え方などについて深く学ぶことができている。

以上のように、H中学校では、人間関係構築力を高める学習を3年間継続して取り組むことによって、コミュニケーションの基本的なスキルを身につけ、より良い人間関係を構築する力が生徒一人一人に培われてきている。

また、教科との関連させる実践も工夫されている。例えば、「赤ちゃん登校日」の学習は家庭科の保育領域と関連させ、国語科では赤ちゃんとの関わり体験の後、自分の親に手紙を書く、文化祭壁新聞の記事として載せるなどの取組を行っている。

総合的な学習の時間の学習をとおして、生徒のコミュニケーション能力の向上が見られ、その結果、教科等において生徒同士が協力して、課題を解決し、それらの学習の成果を発表するなどのスキルの向上が見られる。このH中学校の実践から新学習指導要領における総合的な学習の時間の重要性を示唆していることがわかる。

## 5. まとめ

本調査は、新学習指導要領における総合的な学習の時間の重要性について中学校を中心に調べたものである。中学校では、新学習指導要領の全面実施を控え移行措置の実践や指導、教育課程の編成準備等が進んでいる。

前項で述べた中学校での実践からは、総合的な学習の時間が工夫され、探究的で協働的な学習が進められていることがわかる。他校での実践のよい参考となることと思われる。各学校での新学習指導要領の主旨に沿った学習活動の展開が多くの学校で進められることを期待したい。

総合的な学習の時間が創設されてから20年以上が経過し、各学校においてその趣旨や目標の達成に向けて工夫がなされ、成果も上げてきた。一方で、総合的な学習時間において何を学ぶのか、教科等の学習との関連等が明確でない場合がある。さらに、行事の準備時間などに使われていることもある。

学校現場は極めて多忙で、やらなければならないことが山積している。しかし、生徒は自己や他者について考え、自分の置かれた環境について興味や課題意識をもち、協働の意識で問題解決にあたることが求められる。そのためには、学校の様々な学習場面を通して主体的・協働的な態度を身に付けさせたい。総合的な学習の時間は、そのための重要な学習機会であると言える。

全ての学習の基盤となる資質・能力を育成するための総合的な学習の時間が学習の中心となり、教科等の学習の基盤となる。今後は、新学習指導要領における総合的な学習の時間の展開について提案できるようさらなる調査・研究にあたりたい。

## 謝 辞

本調査の実施にあたり、聞き取り、資料提供にご協力いただきました千歳市立千歳中学校、ならびに恵庭市立柏陽中学校の校長先生、教頭先生はじめ、諸先生の皆様に深く感謝申し上げます。とりわけ、新型コロナウイルス感染予防対策について多忙な中、時間を割いていただき実践の紹介、資料の

提供にご配慮いただきましたことにお礼申し上げます。

## 文献

- 一ノ瀬敦幾，2019，「新学習指導要領における総合的な学習の時間の役割と各教科との関係－総合的な学習の時間の「全ての学習の基礎となる資質・能力」を用いた各教科の指導－」．『常葉大学教科開発論集』7：137-143
- 栗原 保，2017，「中学校の総合的な学習の時間に関する実証的な研究（1）」．『人間科学研究 文教大学人間科学部』39：95-104
- 中央教育審議会答申，2016，「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」文部科学省ホームページ，（2017年1月20日取得，  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902\\_0.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf)）
- 中学校学習指導要領（平成29年告示），2018，文部科学省
- 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編，2018，文部科学省
- 根岸久明，2020，「未来社会を見据えて，これからの学校教育に必要な学びとは中学校における総合的な学習の時間の必要性と重要性を探る」．『洗足学園音楽大学教職課程年報』4：43-55



# The Importance of the Period for Integrated Studies in the New Course of Study

TSUNETTA Hirotaka and SASAKI Tamotsu

**Abstract:** The purpose of this study is to examine the practice of junior high schools from the viewpoint of the importance of the practice of comprehensive study time in order to realize the keyword "Proactive, Interactive and Deep Learning " in the new course of study. It was found that study in the time of comprehensive study had a positive influence on the study in the subject in order to improve the communication ability of the student.

**Keywords:** the Course of Study,the Period for Integrated Studies,Proactive,Interactive and Deep Learning